

東京大学大学院 農学生命科学研究科附属

生態調和農学機構 総合研究実験棟 完成



東京都西東京市の東京大学田無キャンパスで整備が進められていた東大生態調和農学機構新実験棟が完成を迎えた。キャンパス再編に伴い、これまで分散していた実験棟や事務室などを集約。建物には敷地内の樹木や土を一部使用した。同施設から農学の統合的な教育・研究を推進する。設計は東畑建築事務所、施工は東急建設がそれぞれ担当した。

最新設備を備えた教育研究施設

インタビュー

東京大学大学院 農学生命科学研究科 附属生態調和農学機構 准教授・農学博士 米川 智司氏



建設の経緯についてお聞かせください。 「生態調和農学機構のある田無キャンパスは、水田、畑、果樹園、林、温室などを有し、約30haあります。現場の科学である農学の教育研究には、生産規模のフィールドが不可欠で、これを担ってきたのが当機構です。現在キャンパスでは、敷地を二分する都市計画道路の整備に伴い、機能をゾーニングし集約する大規模整備を実施中です。北側を2017年10月に竣工した格納庫棟や調製施設群をはじめとする教育研究エリアとし、南側をハス見本園や、農場博物館などの歴史的価値の高い建物を残す、市民に開かれたエリアとする再編プロジェクトです。今回新設した建物は北側に位置し、教育研究の中核を担う研究実験棟になります」

農林学研究を社会に還元

施設の特徴について伺います。 「研究室や講義室は、ハラスメント防止の観点から壁の一部がガラスで、内部の様子が廊下から見えるようになっています。最新設備を完備した生物系実験室や情報機器室などに加え、他学部の実験棟では見られない圃場(ほじょう)玄関と試料調製室を設置しました。圃場玄関と試料調製室は、それぞれ人と実験材料のフィールドと研究実験棟の緩衝地帯になります。各室で、人は泥まみれの長靴や作業着を洗浄し、実験材料の農作物や土壌はサンプル部分のみにより分けられます。また、試料調製室は、フィールドからトラクターなどで直接農作物を運び込める段差がないしつらえのほか、可動壁を設け冷暖房効率を上げるなどの工夫が図られています」

設計コンセプト

「東大農場」として有名な東京大学田無キャンパスの、老朽化した現本部棟の建て替え計画です。都市計画道路の整備に伴うキャンパス再編後の中核施設となります。異なる3つの農学分野の研究を行う本施設は、研究フィールドである圃場や演習林を常に感じながら、研究分野を横断したコミュニケーションを育む場を目指して計画されました。

フィールドと調和する研究空間創出

建物配置は、農学系キャンパス固有の南北軸を基軸とし、3つに分節した建物ボリュームを雁行配置させて、都市計画道路に対してリズミカルな景観を創出しています。これらのボリュームの隙間から共用部に光と風が導かれ、館内のどこからでも圃場や演習林が垣間見えるようになり、ボリューム交差部の吹き抜けでは上下左右に視線が抜けて人々の出会いを誘発します。その中央に位置する1階ホールは、これらすべてを感じられる、人とフィールドが交差するレセプションスペースとなっています。屋内から圃場へのアクセスは、玄関・更衣室機能を集約したトランジットゾーンを形成し、農場実務の機能性を向上させながら、建物の正面性に配慮した配置としています。

現地の土を練り込んだ特注の外壁タイルや、演習林の間伐材や農場廃屋の構造材をフローリング材として加工し、メモリアルとしてホールの床に使用するなど、農場の個性や大地との一体感を感じられる、長寿命で高耐久な研究所を目指しました。 株式会社東畑建築事務所 本社オフィス東京 第3設計室 副室長 炭田晶弘 主任技師 保科充宏



講義室



生物学実験室



情報機器室



ドラフト室



試料調製室



ホール



南側から見た総合研究実験棟

現場は田無キャンパス内の一面になります。学校関係者様とよく関係をお築することを心がけ、引き渡しの際、完成を互いに喜びあえることを目標にした現場運営を目指しつつ、学生や教職員の方々に不安を与えないように安全管理を徹底しました。所員に対しては吹き抜けや天井段差などの多い建物だったことから墜落災害を起さぬよう厳しく指導してまいりました。 新実験棟は研究施設や講義室を完備した中規模低層のRC造建築物です。構造にはポイドスラブ、PC鋼線、PC床板を採用。仕上げでは外断熱、外壁タイルの乾式工法、演習林の木材を使用したフローリングなど、さまざまな特徴を持った建物でした。当社の若手社員にとつては、貴重な経験になる機会がない大変勉強になる工事だったと思います。品質面については設計段階での検討を細かく行っていたため、精度の高い設計図書をお渡しいただけました。 おかげで施工への描き起こし作業や発注物の手配などをスムーズに行うことが

- 工事名称: 東京大学(西東京)(仮称)総合研究実験棟新営その他工事
工事場所: 東京都西東京市緑町1丁目1-1
建築主: 国立大学法人東京大学施設部
設計: 株式会社東畑建築事務所
施工: 東急建設株式会社
敷地面積: 4,981.38㎡
建築面積: 1,885.28㎡
延床面積: 3,445.27㎡
階数: 地上2階
構造: RC造
工期: 2019年11月25日~2020年12月25日

学生や教職員に配慮した施工に注力

新型コロナウイルス感染症拡大と同時に着工したため、工事を中断することなく、感寒ゼロで無事竣工を迎えました。懇切丁寧なご指導をいただいた東京大学様をはじめ全ての工事関係者様のご尽力に改めて感謝申し上げます。なかでも担当いただいた米川先生は建築にも造詣が深く、引渡の際に感謝の言葉を頂戴できたのは施工者としての上ない喜びです。この施設が研究を深め、農林業研究の中心を担うことを期待するとともに貴機構のますますの発展をこころより祈念しております。 東急建設株式会社 所長 林信行

施工



「建てる」を超え、未来を生みだす。 東急建設株式会社

東京都渋谷区渋谷1-16-14 電話 03(5466)5020

大栄電気株式会社

東京都中央区湊1-14-15 電話 03(6738)8888

朝日工業社

東京都港区浜松町1-25-7 電話 03(6452)8161

Table listing various construction services and partner companies such as IWD, Amano Industry, and others.